

2011年(平成23)7月

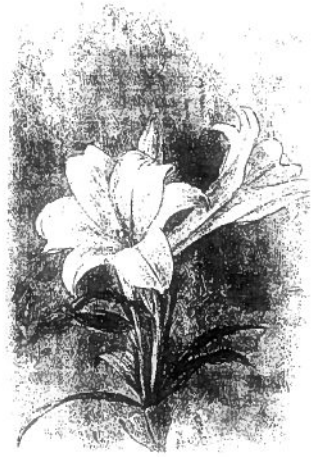
カルメル
靈性センターニュース



7月

267号

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十一章 心の痛悔

1 流されの身であることを思う

徳において進歩しようと思うならば、神へのおそれにとどまり、過度の自由を避け、五官を制御し、むやみに狂喜してはならない。

心に痛悔を起しなさい、そうすれば熱心を見いだすであろう。痛悔は多くの善をもたらすが、乱れた生活は瞬く間にその善を失わせる。人間は流されの身であり、霊魂はさまざまな危険にさらされていることを顧みると、私たちがこの世で喜びに満ちあふれて生活し得るとするのは、幻影にすぎない。

2 浅はかさ

私たちの心は浅はかで、欠点を根絶しよう心がけていないから、霊魂を傷つけることに対して鈍感である。そして、泣かなければならない時に、おろかにも笑う。真の自由、正しい喜びは、とがのない良心と神へのおそれとにある。自分の心を乱す、すべての原因を遠ざけ、聖なる痛悔に潜心する人は幸いである。自分の良心を汚し、また自分を迷わせるすべてのことを遠ざける人は幸いである。勇ましく闘いなさい、習慣はほかの習慣によって負かすことができる。あなたが、他人とかかわり合うのをやめるならば、他人もあなたのおこなうことに、かかわり合わないであろう。

母が そこにおられる、
闇の中で
見守っていてくださると
知ることは
子どもの心を
よろこび躍らせます。

力を新たにし
希望を立て直し
光と平和をもたらします。*



一幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父 ocd一

～カルメル山の聖母～

うっとりしい梅雨の日々に雨にぬれて美しく変容していく紫陽花の花は今日もまた、昨日とはちがったブルーの深みを増したようです。

7月16日カルメル山の聖母の祝日の頃はもう梅雨も終わっているのでしょうか。雨でも日照りでも、私たち一人ひとりにとってマリアは常に母です。

20日は聖エリヤの祝日。彼が活躍したのはバアルの神を人々が拝む罰として雨が断たれていた時でした。イスラエルの民が「主が神である」と宣言した後、エリヤはカルメル山の頂で祈り、「人の手ほどの小さな雲」が海から立ち上がるのを見ました。この雨雲にエリヤは子をはらんだ処女を眺めたと初代修道者に関する資料にあります。エリヤの預言者的信仰のまなごしは、そこに「命」そのものであるキリスト、恵みの雨の前兆を読みました。後日「人々に命を与える」あがない主は「命の水」に渴いている人々の心を潤すことになり

マリアよ

あなたを眺めるだけでは 私にとって十分ではありません。

私の祈りと生活の貧しさは 私を絶望的にさせます。

慈しみの母、マリアよ、あなたのうちに私は逃れたい。

悲しみ、勇気を失っているときこそ聖母は私たちの身近におられます。

ちょっとした心細さや悲しいしぐさとか、見かけは意味がないような出来事などによっても、確かにマリアがそこにおられることがわかります。

闇におけるマリアは、母、

まことに母である、母でしかない、子供の弱さをつつむ母。*

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

*『神と親しく生きる いのりの道』より、聖母の騎士社

エデンの園 (10)

くのり 彰

「エデンの園」の詩から大分離れてしまった。

失樂園は、自己意識が芽生えることにより、人間が人間として誕生したことを象徴しているように思われる。これが物差しのように機能し、自分を見つめ、他者を眺め、さまざまなものを比較検討することによって、文化が生まれ、技術が刷新され、現代に至っているということである。

話が横にそれるが、コンピューター技術や他の技術を駆使すれば、人間と同じような機能をもったロボットを作り出すことができるだろう。外観は人間と見間違えるようなロボットもすでにできているようだ。

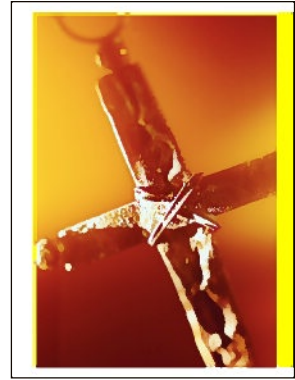
だが、ロボットは生物ではない。そこに生命はなく、有機体的な成長がないばかりでなく、子供から大人、老人へと成熟していく外的内的歴史はない。すべて予めセットされただけのことしかできない。エネルギーが不足すれば、動かなくなる。そして人間と大きく異なることは、内的歴史がないということに重なるが、目には見えない心がないということである。この次元が大きく欠落している。いくら上手に作っても人間ではない。「にせもの」でしかない。このことは、押田神父が『遠いまなざし』の中で指摘している。

現代は虚構の世界なんです、幻想の世界で生きているんですね。…福祉ということにしても、やっぱり一つの幻想です。極端な例いいますと、ある大学の教授が身体の不自由な、傷害のある方の世話をするロボットを作っているんですね。福祉事業と思ってやっているんですよ。

ロボットはね—植物の栽培にロボットを使うことだって、すでに反逆です。物だって我々が意識の世界で考える物体じゃないんですよ。土だって生きているんです。いわんや人間は物体じゃありませんよ。こういうロボットに世話された人間が、自分の孤独を感じた時のことを感じてください。その手を何かおぞましいものと感じますよ。これ、幻想なんですね。いいことしていると感じるの、幻想なんです。

とはいえ、技術革新はとどまることを知らない。携帯電話やインターネットは、私たちに途方もない便利さを提供してくれているが、「人間となる」ことを、ますます難しくしているとも言える。 (続く)

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（145）



傷ついていること

イエスは、十字架の上で傷ついていました。彼は、その苦しみと死を、是が非でも避けるべき悪としてではなく、受け入れるべき使命として、生きたのです。私たちも傷ついています。私たちは傷ついた身体、傷ついた心、傷ついた精神、傷ついた霊をもって生きているのです。私たちは、傷ついた人間関係で苦しんでいます。

どのように私たちは、この傷ついた状態を生きることができるのでしょうか。イエスは、十字架を受け入れ、それを使命の一部として生きたように、私たちも傷ついた状態を受け入れるように、招いています。彼は、この傷ついた状態を、私たちの罪深さを思い起こさせる神からの呪いとして拒否するのではなく、それを受け入れ、私たちの浄化と聖化のために、神の祝福のもとに置くよう求めています。こうして私たちの傷ついた状態は、新しい命への通路となるのです。

(0715)

与えられていること

イエスは、世界に与えられています。彼は選ばれ、祝福され、与えられるために傷ついています。イエスの生と死は、他者のための生と死です。永遠の昔から選ばれた神のいとし子は、十字架の上で傷つけられ、それによってこの一つの命は増加し、あらゆる場所とあらゆる時代の人々のための食べ物となり得たのです。

神のいとし子として、私たちは、次のことを信じなければなりません。神から選ばれ祝福された子供として生きようとするならば、私たちのささやかな人生が傷ついているのは、他者に与えられるためなのだ。私たちもまた、この世のためにパンとならなければならないのです。私たちが祝福の内にこの傷ついた状態を生きる時、私たちの命は、世代から世代へと命を生み続けるでしょう。それが、聖人たちの歴史なのです。彼らは死にました。しかし彼らは、彼らの後に生きる人々の心の中に生き続けるのです。そしてこれが、私たちの歴史でもあり得るのです。

(0716)

(九里 彰訳)

「疲れた者、重荷を負う者は、誰でもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ 11, 28)。

今日の福音朗読箇所直前に記述されていることは、宣教活動が、どれほどの心身の疲労をイエスに強いるものであったかです。まず、洗礼者ヨハネ、イエスをよく理解し、肝胆、照らし合える相手と期待できて当然と思われる彼も、イエスを良くは理解できてはいないようです。一般の人々は、なおのこと、「大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ」と、イエスの言動を曲解し、イエスを切り捨てています。数多くの奇跡をもってしても悔い改めに導けなかった人々の頑なさに直面して、イエスは、無力感、徒労感に打ちのめされていても、あるいは、怒りを爆発させていても、わたしの体験に照らし合わせてみれば、当然と思えます。

このような状況の中で、イエスの心は、御父への賛美と感謝を心から吐露します。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」。それは、イエスの働きに豊かな実りを御父が約束され、その実りを味わっているからではないのです。実は、この場面は、十字架の上でのイエスの体験、通りかかった人々が頭を振りながらイエスをののしる言葉を耳にする、それだけではなく、御父からも捨てられたと実感する、このような極限状態にあるイエスの内面に思いを及ぼせるに十分なものではないでしょうか。このような極限の遺棄の中にも、イエスは御父にすべてを委託して死の淵に降りてゆかれる。「父のほかには子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知るものはいません」。十字架の死は、イエスが御父を徹底的に知っている、つまり、何の保証もなしに、まったくの信頼のうちに自分を委ねきってよい方と知っている、このイエスの御父への委託の証しなのではありませんか。イエスの安らぎは、この御父への信頼に根を下ろしています。そして、わたしたちも、ご自分が生きておられる御父への信頼関係に参加するようにと、招いています。

「休ませてあげよう」。それは、疲れさせる重荷となっているものをすべて取り除けるとの約束ではないでしょう。「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」。イエスが言われる「わたしの軛」とは、特殊な試練、苦難を指しているのではなく、イエスが生きた御父への信頼の徹底化に参加する機会とするべき、わたしたちの日常生活で遭遇する困難、試練なのです。 ルカ 渡辺幹夫

本日の福音は種を蒔きに行く農夫についてです。私たちは信仰により創造のとき言葉が生命と光をもたらしたことを知っています。私はあなたの神であり、あなたは私の民であると言う神の言葉について、又全てが神自身のものであることを教えてくれます。行って再び二度と罪を犯すな、赦しなさい、弟子になり、あなたの隣人を愛しなさい、と信仰は言います。このことは、言葉が肉を作りこの創造の言葉が私たちの間にテントを張ったということのを思い出させます。今日イエスは私たちが 100 倍も実を結び、永遠の生命を得るように望まれます。

最初の箇所では私たちは神の言葉の力を知ります：それは十分の実をもたらすまではやまない雪や雨のようです。第二の箇所では、私たちの体の贖いを待っている創造について教えてくれます。この福音には種を蒔く人と種のたとえ話がでできます。このたとえ話はイザヤの預言の最初の箇所と強い繋がりを持っています。両者とも神は私たちと豊穡を分かち合い、神のご計画は失敗することはないと語っています。神の創造と養育の働きは地上に降り湿りを与え、「実をならせ、種を蒔く人には種を、食べるにはパンを与えるように成長させる」までやまない雨や雪と比べられています。種は度々荒れ地に落ちますが、肥沃の土地に落ち豊富な収穫をもたらす種もあります。ここに神の言葉はむなしく帰ることはないという主の約束があります。常に目的を完成します。福音書の全体において神の言葉は単なる言葉ではありません。それは行う言葉、創造する言葉、生命を与える言葉です。生命を生み出す種のようなのです。私たちはどこでその言葉と出会うのでしょうか？ 私たちの生活のあらゆる経験の中で、その経験が喜ばしいものであろうと悲しいものであろうと、成功であろうと失敗であろうと、嬉しいものであろうと痛ましいものであろうと、もし私たちが十分に敏感であれば、絶え間なく出会っています。私たちキリスト者は特に神の言葉を特別な方法で経験します、それはイエス・キリストにおいてです。何故ならイエスは「神のみ言葉」だからです。イエスが言われた全てのこと、イエスがおこなった全てのことはイエスを通しての私たちへの神の交信です。イエスの教えだけでなく、ナザレの隠れた生活の年月から公生活を通して死と復活にいたるまで、この全てにおいてイエスは「神のみ言葉」でありましたし、また今日私たちにとって「神のみ言葉」であります。

たとえ話にあるように、この「み言葉」の多くは不毛の土地に落ちました。多くの人が聞くこと、見ることを拒みました。イエスの一番近い弟子たちでさえ、最初は見込みのある土地とはいえませんでした。イエスの生命と使命は悲劇的な大失敗に終わりそうでした。一人の弟子も見えませんでした。敵はイエスをあざ笑いかからいました。「神のみ言葉」が人々の心に根をおろし始めたのは、まさに種が「地に落ち死んだ」瞬間でした。小さいからし種や、少量のパン種で始まり、種すなわち「神のみ言葉」は見込みに反して成長し、繁茂し始めました。「私の口から出る言葉は私の意志を成し遂げ、成功することなく無駄に帰ることはありません。」イエスご自身と同様に、今日の私たちも神のご計画は失敗することなく、神の王国は設立されることを思い出す必要があります。

イエスは弟子たちに特別の場を与えています。群衆に種蒔きの人のたとえ話をされた後、弟子たちにむかって、あなたたちは天の国の秘密を悟ることがゆるされているが、群衆にはゆるされていないと言われます。弟子たちは聞き、悟るように特別に選ばれています。弟子たちは使命を持った人たちですから、神の王国への道を悟る筈でした。目は開き、耳は「神のみ言葉」を聞くことができる人たちは、神の王国に通じる道、真理、いのちを理解します。

(Sr. Paulina)

「イエスは、別のたとえを持ち出して言われた」(マタイ 13, 14)。

一般に、わたしたちがたとえ話を持ち出すのは、分かりにくい話を理解し易くするためです。がしかし、イエスの場合は、これとは少し異なっているようです。弟子たちが、「なぜ、あの人たちにはたとえを用いてお話になるのですか」とイエスに尋ねたとき、イエスは、「あなたがたには天の国の秘密を悟ることが許されているが、あの人たちには許されていないからである。持っている人はさらに与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。だから、彼らにはたとえを用いて話すのだ」(マタイ 13, 11-13)と答え「イエスはこれらのことをみな、たとえを用いて群衆に語られ、たとえを用いないでは何も語られなかった」(マタイ 13, 34)。それは、「わたしは口を開いてたとえを用い、天地創造の時から隠されていたことを告げる」との預言者の言葉が成就するためであったと書かれています。「隠されている」ことは、たとえでなければ語りえないというのでしょうか。なぜ、そうなのでしょう。

実は、天の国の秘密、天地創造の時から隠されたいものを悟る可能性は、自然の人間の、ましてや罪に傾いた人間の知恵、価値観、善悪判断の延長線上にはなく、神の霊によって新しいものとされ、人間の知恵、判断力が自分の力では達成できない高みに登らせていただいていることが、必須だからです。なぜなら、天の国に秘密は、滅んでゆく者にとっては愚かなものである「十字架の言葉」に凝縮していますから。「ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなもの」、「しかし、召された者には、神の力、神の知恵であるキリスト」(1コリント 1, 24)。このイエスを自分の生命の軸にしようとする心の動き、つまり、自分の善意、判断基準の不備さを認め、自分にではなくイエスに基づこうとしないなら、たとえの意味は把握できないのです。イエスに聴く者であるわたしたちが、イエスによって悔い改めに導かれるままになっているのではないなら、たとえ話の核心を、わたしたちは把握できず、素通りしていることになるのです。今日の福音のイエスのたとえ話の中にも、当時の人たち、そしてわたしたちにとっても、悔い改めなしでは把握できない箇所があるはず。それを隠さないで、謙虚にイエスに尋ねてゆけばよいのです。たとえ話は、自分でも気付いてはいないわたしたちの心の深み、自己中心的な眼ですべてを観察し、裁いているわたしたちの真実な姿をあぶりだす、その機能を皮肉にも果たしている、と言わなければならないでしょう。ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 17 主 日 (マタイ 13:44~52)

今日の福音は比喩に富んでいます：埋められた宝、高価な真珠、魚でいっぱいの網。マタイ 13 章の天の国のたとえ話に使われています。

最初の喩え話で、イエスは天の国に入ることを畑の土の中に埋められている宝を見出した人に喩えておられます。当時、裕福な人以外は貴重品やお金を隠し蓄えておく場所がありませんでした。普通の人たちはその財産を土の下に埋めて隠し持っていたのです。時々予期せぬ事で、彼らは財産を置いたままその土地を離れねばなりません。それを再び手にすることは稀です。ここでは、畑に埋められた他人の宝を偶然に見つけた人が、持ち物を全部売り払ってその畑を買い、そこに埋められていた宝を自分の物にしたと言っています。この喩え話が示唆することは明瞭で、真の宝であるイエスを見つけた人は、イエス以外のものには関心がなくなり、全てはイエスに向かうものとなることを表しています。使徒パウロは心から言いました。“わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。”二番目の喩えも同様です。最高の真珠を探している商人が、それを見つけると、全ての物を売り払って手に入れる話です。

この二つの喩え話は同じように見えますが、意味に少しの違いがあります。最初の話の、畑を買って宝を得た人は、初めから宝を探していたわけではありません。彼は普段の生活の中で見つけたのです。同じように人は予期しないでイエスに出会い、あらゆる努力をしてイエスを自分の全てとして生活するようになります。これは真の回心です。次の喩え話では、商人は初めから、大変高価な一粒の真珠を探しています。彼はその存在を確信し、それを見出すために彼のエネルギーのすべてを使います。そこには過酷な探求と最終的な発見があります。

初めの二つの喩え話はキリストに従う人たちの理想である、全くの約束や奉獻を示しているのに対し、三番目の喩え話は私たちが一般の人々の間でしっかりと生活することを勧めるものです。教会と天の国はその発展の過程において、いろいろな人々で満ちています。わたしたちの教会は聖人と罪人の教会です。教会の役割は、そのふところに“貧しい人、病気の人、手足の不自由な人、目の見えない人など”を受け入れ、彼らを真の宝や高価な真珠のあるところに導くことです。王国は聖人と罪人が混じり合っています。そこには常に浄化したい、心の清い人々だけにしたい誘惑があるでしょう。私たちは、辛抱強く、愛情深く、人々を理解できる者となるよう学び努めることが大切です。

今日、イエスは天の国について三つの喩え話をして、私たちにこの世の生活の意味を理解させます。どんな犠牲を払っても私たちが天国に導き入れるためです。人は天国を見出すために、すなわち自分の救いのために全身全霊の努力をすべきです。天国は絶対の価値あるものです。自ら率先して努力する人には、至上の賜物、贈り物、恵みが用意されています。 (Sr. Paulina)

年間第十八主日 A マタイ 14, 13-21

「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」(マタイ 11, 16)。

イエスが人里離れたところに退かれると、群衆も町を出てその後を追い、人里離れたさびしいところに来てしまいます。それは、イエスが誘い出したといってよい状況でしょう。ここで思い起こすべきは、モーセに導かれてエジプトから脱出し、砂漠を旅したイスラエルの民の事跡です。この旅で、一度ならず、食べ物、飲み物の枯渇の問題に民は直面しています。そのような状況の中で、民は、人間的方法で問題を解決しようとし、パンと肉が保証されるエジプトに、隷属の地に戻ろうとします。福音においても、パンの飢えに直面した弟子たちは、人々に出てきた町に戻って行きパンを買い求めさせる人間が思いつくことで、この難局を解決しようとし、しかし、イエスは、「行かせることはない」とこの提案を退け、「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」と弟子たちに命令しています。ここに、イエスの知恵が現実の食糧問題を解決する方法が隠されています。

「買いに行く」が意味することは、人間的判断に頼り、出てきた町に帰ること、もう一度、その経済法則に、その構造に服することに帰ることです。「与える」は、かえって、メシアが打ち立てるために来た新しい現実を徹底的に受け入れることから始まります。「買いに行く」と「与える」の間で、ある意味で、エジプトに戻ることに、あるいは、体験したこともない約束の地に向けての旅を続ける冒険、この出エジプトの二者択一が再現され、隷属に戻るか、自由の未来に向けて前進するか、この選択を前にしているのです。イエスによって設定された新しい状況は、食べるために座るようにとの命令によっても裏打ちされています。この姿勢は、まさに、エジプトからの解放の記念に過ぎ越しの食事をするときの神の民の態度です。イエスが神に向けてなさるパンのための祝福と感謝の行為によって、パンは、人間的次元に閉じ込められていることから解放され、神の賜物、神の寛大さと人間たちへの愛の表現となります。それで、パンと魚とを分かち合うことは、創造主である神の寛大さを延長することになり、被造界が、人間のエゴイズムから解放されたとき、すべての人間の必要に対応するに十分なパンと魚が約束されます。それで、この場面には、出エジプトとの関連で見られ、イエスによって提唱される出エジプトの新しいモデルが提示されているのです。イエスのパンに養われて、分かち合いの愛の完成、被造界の完成に向けて旅を続けているわたしたちです。 ルカ渡辺幹夫

天使

丸山知佳子

皆さんの中には、今、ご病気の方もいらっしゃるかと思います。今これを書いているわたしも病気です。実は、この四月に、癌が見つかりました。

「どうしよう！大変なことになってしまった！」と、恐れと不安で一杯になりながら、神さまの助けを求めて祈っていました。そのような中、ふと思い出したのです。それは、大天使聖ガブリエルが、聖母様に、受胎告知をする場面でした。

「主は、あなたとともにおられます」と、聖母様に言ったあの天使と、自分の病気を重ねて考えてみました。「癌」という名前の天使が現れて、わたしに、「主は、あなたとともにおられます」と告げるのを想像してみたのです。

突然、「癌の天使」の訪問を受けて恐れるわたしに、癌の天使は、こう言います。

「恐れることはありません。主は、あなたとともにおられます。あなたの人生に、神さまからの新しいお恵みが与えられます」と。

わたしは、答えます。「わたしは、主のはしため、お言葉通り、お恵みを頂けますように」と。

先月号（266号）に言い及びました辺見庸氏の詩、二篇です。

*「文學界」6月号「眼の海——わたしの死者たちに」から
書き写しました。

「どれかひとつだけ教えてほしい」

わたしはまだ立っている
潜望鏡のように
三月の水は瞳孔のすぐ下までできている
さっきカヤネズミが横倒しにながれていった
虹彩をかするようにして
ガラスビーズの眼がわたしをちらりと見た
わたしはカヤネズミの眼に問うた
やつぎばやに
— 洗われているのだろうか
— ながされているのだろうか
— 壊されているのだろうか
— 造られているのだろうか
— これは〈後〉なのだろうか
— これは〈前〉なのだろうか
カヤネズミはキキと笑って角膜のむこうに
ながれていった
ガラス体が水でいっぱいになった
世界は滲出させられていた

「死者にことばをあてがえ」

わたしの死者ひとりびとりの肺に
ことなる それだけの歌をあてがえ
死者の唇ひとつひとつに
他とことなる それだけしかないことばを
吸わせよ
類化しない 続べない かれやかのじよ
だけのことばを
百年かけて
海とその影から掬え
砂いっぱい死者にどうかことばをあてがえ
水いっぱい死者はそれまでどうか眠りに
おちるな
石いっぱい死者はそれまでどうか語れ
夜ふけの浜辺にあおむいて
わたしの死者よ
どうかひとりであたえ
浜菊はまだ咲くな
畔唐菜はまだ悼むな
わたしの死者ひとりびとりの肺に
ことなる それだけのふさわしいことばが
あてがわれるまで

「文學界」6月号に掲載された氏の「眼の海——わたしの死者たちに」は27篇の詩から成り、その詩はどれもみなあの日私たちを襲った破壊の光景です。

辺見氏の魂の奥底からいのちのすべてを注いで紡ぎだされたであろう言葉は、まるで赤子のように丸裸というような純な初々しさと、そこにある悲哀の深い絶望を湛えていて、震えおののきます。

格調の高さともあいまっているのですが、全編にちりばめられる美しくも大変に難しい「読めない漢字」の多さに、幾たび辞書を手にしたことでしょう。

しかし、それでもなお解らない字句を前にして、私はもはや手立てを失って焦慮とも傷心ともつかぬ思いにかられ、それは奇妙なことに徐々に詩の内にある深い絶望に誘いこまれ、溶け合い、一体となっていくかの感がありました。

詩は、静謐で美しく透きとおっているにもかかわらず、悲惨は狂おしくここかしこを覆いつくしています。

私は幾日も幾日も夜半、ひとつひとつの詩をたどり、云いようのない何ものに突きあげられ嗚咽しながら27篇の詩を音読しました。

聖書の「哀歌」に歌われるシオンの娘の嘆きが、私の魂に寄り添うように重なりくるのを感じたのはその時でした。

シオンの娘よ、声高らかに主に呼ばわれ、夜も昼も川のように
涙を流せ。 みずから安んじることをせず、あなたのひとみを
休ませるな。 夜、初更に起きて叫べ。 主の前にあなたの
心を水のように注ぎ出せ。 町のかどで、飢えて息も絶えようと
する幼子の命のために、主にむかって両手をあげよ。

私もシオンの娘でありたいと願いました。主に呼ばれる魂をくださいと願いました。 辺見氏の絶望の深さに倣いたいと願いました。

深い絶望からの嘆きの声こそが、きっと神の恩寵そのものであるのではないかと、私は心のどこかで固く固く思い信じているのです。

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

23. 福者テトス・ブランズマ (1881-1942) — その7

福者テトスは、1881年2月23日、オランダ北部のフリースラント州(フリジア地方)に生まれた。オランダではカトリック信者は少なく、当時、カトリック信仰が禁じられていたにもかかわらず、家族は熱心なカトリック信者であり、フランシスコ会に入会した兄と、修道女になった三人の姉妹がいる。彼自身、幼いころから司祭になることを志し、1898年9月、オランダ南部のボクスメルで履足カルメル会に入会。修練期の間、アビラの聖テレジアの著作に親しむようになり、その翻訳を手がけ始めた。1905年司祭叙階、1909年、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学で哲学博士号取得。オランダに帰国して、神学生の養成に携わる。教授職の傍ら、カルメル誌を創刊し、1916年には、アビラの聖テレジアの著作の翻訳を進めるためのグループを結成、他方で地元の新聞の編集者に選ばれるなど、ジャーナリズムの分野でも活躍する。1923年に創立されたナイメーヘン・カトリック大学の設立にも関わり、哲学と神秘神学史を教えた。

ジャーナリストとしては、世界の善益のためにメディアを積極的に活用し、真実を公言してナチスに抵抗、ナイメーヘンでは学生から慕われる教授であり、神秘神学の講義においては、自身の深い祈りの生活の実りを語っていることを感じさせていた。カルメル会においては、共同生活を重んじ、すべての勤行に参加した。十字架の神学に深い興味を抱いており、それは、彼の未来を準備することとなったようである。

1942年1月、ナチスにより逮捕される。彼は自分を逮捕しに来た人をも許し、イエスの足跡に従った。ナチスは彼を最も危険な敵対者とみなし、収容所を転々とさせた。獄中で、詩を書き残した他、アビラの聖テレジアの伝記を書き始めたが、未完のまま終わっている。8世紀にフリースラントの地に初めて信仰を伝え殉教した聖ボニファチウスをまつる教会のために書かれた十字架の道行きの黙想も、獄中でしたためられたものである。1942年7月26日、ダッハウ強制収容所で石炭酸の注射により殉教、訪れるところには、どこにでも——ダッハウにさえ——幸福をもたらしたその生涯を終えた。1985年11月3日、教皇ヨハネ・パウロ2世により列福。聖テレジアと十字架の聖ヨハネを深く愛したテトスの列福は、履足・跣足の両カルメル会にとって大きな喜びとなった。



福者テトス・ブランズマ

—— 祈り ——

十字架の道行きの黙想——聖ボニファチウス教会のために

第9留 イエス 三度十字架の下に倒れる

おお、イエス、あなたは、十字架の下に三度お倒れになることによって、自分の力を過信し、三度繰り返して罪に陥った使徒の三度の否みを贖うことをお望みになりました。あなたは、最後の力をふりしぼって苦しみの丘の頂を目指していかれることを、私たちに示したいと望んでおられます。私たちに送られる十字架と痛みによって、あなたは、私たちに教えてくださいます——御摂理によって私たちの肩の上に置かれた困難な仕事を全力を尽くして果たすことを。そして、心が挫け、弱さを感じる時には、必要な力をいただくために、十字架の下にあなたが倒れておられるのを見ることを。

おお、マリア、あなたは、御子が残された最後の力を尽くして歩んでいかれるのを、尊敬と母親らしい共感をもって、ご覧になっておられます。自分に与えられた務めを果たすことが、あまりにも重く感じられるとき、あなたと共に、このことを思い起こすことができるよう、助けてください。

おお、聖ボニファチウス、あなたの神なる鑑(かがみ)は三度お倒れになりました。そのうちにこそ、あなたは、最後まで揺らくことなく堅忍し、死を前にしても、すべての恐れと躊躇を克服して、攻撃者たちに立ち向かうための力を得られました。あなたの模範に助けられて、私たちも自分の人生の務めを受け入れ、しっかりと果たしていくことができますように。

おお、心優しく……イエス……(訳注:この後は、省略されている)。

第10留 イエス 衣を剥ぎ取られ、苦肝と酢を与えられる

おお、イエス、あなたは、十字架の固い木に、裸で無防備な姿で釘付けにされ、彼らがあなたの苦痛を和らげるために与えようとしたぶどう酒も飲もうとされずに、苦しみの杯を飲み干すことをお望みになりました。

おおマリア、御子が衣をすっかり剥ぎ取られ、苦痛を和らげるための飲み物をも飲もうとされないのをご覧になったとき、あなたの心は新たな共感の力に満たされたに違いありません。そして、御子の模範は、その試練の間、御子と共にいることができるよう、あなたを強めたことでしょう。

おお、聖ボニファチウス、あなたのイエスは、衣を剥ぎ取られ、緩和剤を拒むことによって模範をお示しになりました。その模範は、進んですべてを奪われるままになるように、そして、誇りをもって、恐れることなく、聖書だけを守りとして敵対者たちに立ち向かうよう、あなたをカづけてくれたに違いありません——しかし、その聖書さえも、敵対者たちの剣によって引き裂かれてしまいました。どうか、神によって私に送られるすべての痛みを受け入れる勇気を持つことを、私に教えてください。

おお、心優しく……イエス……(訳注:この後は、省略されている)。

* * * * *

この記事は、既足カルメル在世会員ベニー・ヒッキー氏が編集された **Drink of the Stream: Prayers of Carmelites** (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(泰阜カルメル会訳・編)



福者テトス・ブランズマと聖エディット・シュタイン
(イギリス、ケント州、フェイバーシャム聖ユダ大聖堂所蔵)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (49)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

リスボン

マドリッドからリスボンへ行くことにしましょう。聖人は、かの地へ跣足カルメル会士の管区集会のために、1585年の5月に行きました。

他の修道士たちは、聖痕で有名になったご訪問のマリア院長に会うために、アヌンシアーダの女子ドミニコ会修道院を通って行こうとしていました。十字架のヨハネ修士は、彼女を信ぜず、皆が彼女に会いに行くことを願ったにもかかわらず、同意しませんでした。そしてそのようなことで時間を失う代わりに、聖書を手に取り、アタラサナス付近の海を前にして神の偉大さを讃え始めました。おお、大西洋の波によって解釈され、十字架のヨハネによって味わわれる聖書の言葉よ！

そこでロス・レイェスのアウグスティンは聖人に会い、言いました。

「ヨハネ修父よ、聖痕の修道女に私たちが会いに行くのをあなたは望まれないのですか」。

「何てことだ。何のためにこんな作り話を見に行きたいのですか。黙って、私たちの主がどのようにそれを暴かれるかを見ていなさい」。

すべてを信じていたアンブロジオ・マリアーノは、十字架のヨハネに腹を立て、彼に言いました。

「彼女はあなたの霊とは違うんだ。だから彼女に会いに行きたくないんだ」。

このことから、アンブロジオ修士は、この嘘つきの修道女の「聖痕の偉大な説教者」だったと言われています。

このアンブロジオ修士は、十字架のヨハネ修士が嘘であるといかに確信しているかを知って、聖人を次のようにならかったものでした。

「ヨハネ修父よ、このあなたのカボチャは、いつ熟するのですか」。

カボチャを聖人のはげ頭とみなしたのです。

すると聖人は愛想よくというよりは、言うなれば、イタリア人的ひらめきをもって、こう答えました。

「神が熟させようとする時に熟するでしょう。死ぬまで緑のままであろうと、その前ではありませんよ」。

リスボンの修道女の聖痕の場合、良識と人間的かつ神的直観に満ちたヨハネ修士のはげ頭がまったく正しかったのです。

いのちの言葉 6月

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。
むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、
何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、
また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

(ローマの信徒への手紙 12・2)

これは、聖パウロがローマの信徒に宛てた手紙の後半の一節です。ここで、使徒パウロはキリスト者のあるべき姿について説明しながら、それは、キリストが与えてくださった新たな生き方、真の愛、喜び、自由を表現するものであると述べています。また、キリスト者の生活とは、聖霊の光を受け、その力に助けられながら、日々の務めや問題に、新たに取り組んでいく生き方だと言っています。

前の節と密接なつながりを持つこの箇所、使徒パウロは、私たちの行いの目的、また、行動の土台となる基本的姿勢について、明らかにしています。それは、私たちの生活すべてを神への賛美とし、何が神のみ旨であり、神に最も喜ばれることを常に探し求めながら、愛の行いで日々を満たしていくことです。

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

神のみ旨を行うためには、何よりもまず、何がみ旨であるかを知る必要があります。けれども、それが容易ではないことは、使徒パウロが教えてくれます。私たちが陥りやすい思い違いや過ちに気をつけながら、様々な状況の中で、神が私たちに何を求めておられるのかを見極める助けとなる、特別な光が必要で、それがなければ、神のみ旨をよく知ることはできないでしょう。

それは、「識別」と呼ばれる聖霊の賜物のことで、私たちの内に本物のキリスト者

としてのメンタリティーを育てていくために、なくてはならないものです。

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

これほど大切な賜物を獲得し、育んでいくには、どうしたらよいでしょうか。私たちがキリスト教の教えをよく知る必要があることも確かですが、それだけでは十分とは言えません。使徒パウロが教えているように、「どのように生きるか」が大切です。恐れや、ためらい、ちっぽけな損得勘定を脇に置き、寛大な心でイエスのみ言葉を生きるために、ジャンプしているかどうかが問題です。そして、神のみ旨に心を開き、それを果たす準備ができていようかにかかっています。これこそ、聖霊の光を受けるための道であり、私たちに求められている、新しいメンタリティーを築いていく方法です。

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

では、今月のいのちの言葉をどのように生きたらよいでしょうか。

神のみ旨をよく果たしていくために必要な、聖霊の光を受けるにふさわしくあるよう努めましょう。

神のみ言葉、教会の教え、各々の立場に課された義務などを通して表される神のみ旨を、よりいっそう理解しようと努める決心をしましょう。

そして、すでにお話ししたように、私たちは、愛を生きることによって真の光をいただけるのですから、何よりも生き方そのものに力を注ぎましょう。イエスは、ご自分の掟を実行しながら彼を愛する者に、ご自身を現してくださいませ。（*1）

このようにして、私たちは神のみ旨を果たし、それを最もすばらしい贈り物として神に捧げることができるでしょう。この贈り物は、私たちの神への愛を表現するだけでなく、私たちの周りにキリスト教的な刷新という、光と実りをもたらすものとなり、神に喜んでいただけるでしょう。

キアラ・ルービック

* 1 ヨハネ14・21参照

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1993年8月に発表されたものです

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

いのちの言葉の体験談

私の暮らす地域は、昨年、大水害による土砂崩れが頻発し、峠道では今も危険な場所が数ヶ所あります。梅雨に入り雨の日が増えて地盤がゆるむと、雨音が聞こえるだけで昨年の土砂崩れを思い出し、身のすくむ思いをしまいます。特に目覚めた時に雨が降っている場合は、峠道を通う早朝のミサに出かけるか否か毎回迷うのですが、不安や心配をすべて脇に置いて出掛けます。運転中も祈りを唱えながら、その他の思いを脇に置いて運転しますが、そうしてミサにあずかれた時、神様の深い愛に包まれ、心に平和と自由が与えられるのを感じます。又、神様のみ旨を生きた時、次の瞬間に関わる兄弟をより良く愛する力をも与えられることに感謝しています。

★ お知らせ

★ 関東： 「いのちの言葉」の集い

6月12日（日）14：00（13：30受付）
藤沢市労働会館

★ 関東： マリアポリ

7月16日（土）12：30受付13：30開始
7月18日（月・祝）昼食後 解散

とうしょうかん
東照館

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 210

★ 長崎： マリアポリ

7月29日（金）19：00受付20：00開始
7月31日（日）15：00 解散

長崎県立佐世保青少年の天地

〒857-0001 長崎県佐世保市鳥帽子町
376 番地

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ

カルメル会の企画案内





7月16日 カルメル山の聖母の祭日

カルメル山の聖母の祭日と祝会のお知らせ

東京 上野毛教会



7月16日（土）カルメル山の聖母の祭日ミサ

6:30・10:00

7月17日（日）

カルメル山の聖母を祝う合同ミサ 10:00～

スカプラリオ授与式 11:30～

その後 お祝いパーティー（信徒会館ホール）

※スカプラリオご希望の方は、当日までにご連絡お願い致します。

カトリック上野毛教会

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-3704-2171

上野毛霊性センター ～ '12年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2011年

9月 9日～10日

11月11日～12日

2. 奉獻生活者のための黙想会

2011年

7月31日(日)夕食～8月 9日(火)朝 中川博道神父

8月11日(木)夕食～8月20日(土)朝 福田正範神父

12月27日(火)夕食～1月 5日(木)朝 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2011年度共通テーマ 《いのち》

9月15日 「ほまれある長寿 —知恵の書4章8～9節について—」 ベルナルド神父

11月17日 「いのちであるお方とともに」 古川利雅神父

2012年

1月26日 「永遠のいのち —霊から生まれた者は霊である—」 中川博道神父

4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

7月 8日 「神の預言者聖エリヤ」 ベルナルド神父

10月28日 「福者三位一体のエリザベット」 古川利雅神父

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 カルメル会士

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

7月16日(土)15時～ 7月18日(月)15時

11月25日(金)18時～11月27日(日)15時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

10月8日(土)15時～10日(月)15時

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

テーマ:「私は神を見たい」

10月14日(金)20時～16日(日)16時 「祈り」

14日は夕食を済ませてご参加ください。

9. 待降節黙想会

12月 9日(金)夕食なし～11日(日)昼まで 指導:古川利雅神父



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会

テーマ《カルメルの聖人》

..... 神の預言者エリア

日時： 2011年7月8日（金） 10時～16時

指導： ベルナルド 師 （カルメル会上野毛修道院司祭）

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）



ベルナルド神父

お問合せ..... TEL.03-5706-7355

FAX. 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み..... FAX, メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2011年9月9日（金）18時～10日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

カルメル青年黙想会

「マリアの生涯」

～見よ、あなたの母を～



バルトロメ・エステバン・ムリリョ作
「カルメル山の聖母」

- 日時： 7月16日(土)15時～7月18日(月)15時
場所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線上野毛駅下車)
- 対象： 青年男女(35歳まで)
定員： 20名
費用： 一般 10,000円 学生 7,000円
締切： 7月9日(土) <必着>
指導： 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、
ハガキ・FAX・Eメールのいずれかで下記まで。
折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
電話 03 (5706) 7355
FAX 03 (3704) 1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp



2011年

「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館ホール)

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

	月日	テーマ	聖書箇所
1	5月27日	「聖書への親しみを持つことから」	
2	6月10日	「天地創造の物語を読む」	創世記 1章1節~2章3節
3	6月24日	「あなたは誰？」(1) 聖書の人間へのまなざし	創世記 2章3節b~2章25節
4	7月8日	「あなたは誰？」(2) 聖書の人間へのまなざし	
5	7月22日	「人間の問題性」(1) 人間存在の根源的なずれとゆがみ	創世記 3章
6	7月29日	「人間の問題性」(2) 兄弟性のゆがみ「カインとアベル」	創世記 4章
7	8月26日	「信仰を生きるとは？」 信仰の祖 アブラハム	創世記 12章
8	9月2日	「人間の問題性に関わる神」 聖書のメインテーマとしての「脱出」	出エジプト記 1章~3章
9	9月16日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ 1章 35節~42節
10	10月7日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを生きるキリスト	
11	10月21日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスの名の由来 イエスの残されたものをおして	マルコ 10章 45節 I コリント 11章 23節~26節
12	11月4日	「キリストに近づく」 —洗礼と永遠の命—	ヨハネ 3章 1節~21節
13	11月18日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ 1章 26節~38節
14	12月2日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2) 教会共同体の原型としてのエリザベトとの出会い	ルカ 1章 39節~56節

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2011年～2012年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス

夜のクラス

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

火曜日 6月14日	金曜日 6月17日
火曜日 7月12日	金曜日 7月15日
火曜日 10月25日	金曜日 10月28日
火曜日 11月22日	金曜日 11月25日
火曜日 12月20日	火曜日 12月20日
2012年	2012年
火曜日 1月31日	火曜日 1月31日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして迎えます

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

7月 5日	7月 1日
9月 13日	9月 9日
10月 11日	10月 14日
11月 8日	11月 11日
12月 6日	12月 9日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

2011年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

7月 2日(土)～3日(日) 今日を生きる	新井延和神父
9月 3日(土)～4日(日) 人を赦すこと	※今泉健神父
11月19日(土)～20日(日) ユダヤ人の王	新井延和神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

10月 8日(土)	九里彰神父
12月10日(土)	新井延和神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

7月13日(水) 幼子の心	九里彰神父
9月14日(水) 私たちの生活と十字架	松田浩一神父
10月12日(水) ロザリオの祈り	松田浩一神父
11月 2日(水) 死とは何か	新井延和神父
12月14日(水) 愛の生ける炎	九里彰神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月 3日(土)～12月 4日(日)	松田浩一神父
---------------------	--------

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(金)～10月 1日(土)	伊従信子師
--------------------	-------

【青年のためのキリスト教霊性】 (午後5時～午後4時) 対象：40歳以下の青年男女

11月5日(土)～11月6日(日)	松田浩一神父
-------------------	--------

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

8月 3日(水)～8月11日(木)	松田浩一神父
8月18日(木)～8月26日(金)	九里彰神父
12月27日(火)～1月 4日(水)	新井延和神父

※) の部分は先月号と担当が変更しています。

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

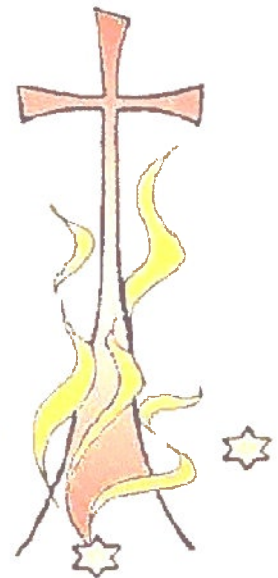
【参加者人数】

6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土) |
| ② | | 2月18日(金)～19日(土) |
| ③ | | 3月25日(金)～26日(土) |
| ④ | | 4月15日(金)～16日(土) |
| ⑤ | | 5月13日(金)～14日(土) |
| ⑥ | | 6月17日(金)～18日(土) |
| ⑦ | | 7月22日(金)～23日(土) |
| ⑧ | | 9月 9日(金)～10日(土) |
| ⑨ | | 10月28日(金)～29日(土) |
| ⑩ | | 11月11日(金)～12日(土) |
| ⑪ | | 12月16日(金)～17日(土) |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ⑬ | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ⑭ | | 3月16日(金)～17日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2011）

「私たちの間にある神の国を探して」—今の時代に芽生える神との新たな出会い—

「神の国は見える形では来ない、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがの間にあるのだ」（ルカ17章21節）

“混乱の時代” “行き詰まりの時代” “崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない。」

（イザヤ65章17節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2バチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。

2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

第1回	1月10日(月・祝)	混沌の中に差し込む光(創世記1章)	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月26日(土)	主が示される地に向かって(創世記12章)	松田浩一神父(宇治修道院)
第3回	3月12日(土)	絶望の中の光(イザヤ43章、65章)	高山貞美神父(聖心布教会)
第4回	4月9日(土)	新しい派遣(列王記19章)	新井延和神父(宇治修道院)
第5回	5月5日(木・祝)	新しい契約(エゼキエル36章)	今泉健神父(上野毛修道院)
第6回	6月25日(土)	神の国の芽生え(マルコ4章)	三上和久神父(三馬修道院)
第7回	7月18日(月・祝)	わたしの中に生きるキリスト(ガラテア2章)	ポクダン神父(南山教会)
第8回	9月17日(土)	キリストの新しい錠(ヨハネ13章)	Sr.パウルナ(宣教カルメル修院)
第9回	10月22日(土)	新しい生活(改革)、アブリラの聖テレジア	松田浩一神父(宇治修道院)
第10回	11月23日(水祝)	新しい生き方の根、十字架の聖ヨハネ	九里章神父(宇治修道院)

* 時間 AM10:00~PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム
10:00~ 祈り・導入・黙想
10:30~ 講話(1)
黙想・赦しの秘跡または面接
11:50~ 昼の祈り・お告げの祈り
12:15~ 昼食
12:50~ 黙想・赦しの秘跡または面接
13:30~ 講話(2)
14:45~ ミサ
15:30~ 茶話会・分かち合い
16:00~ 終了予定

☎ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市中熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市中東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2011年度名古屋聖書深読会

第1回 了

第2回 10月29日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

男子跣足カルメル修道会 東アジア・オセアニア地区上級長上会議

宇治(京都)ー日本 (2011年6月4日) 発:

5月30日から6月3日まで、宇治黙想の家(京都 日本)で、男子跣足カルメル修道会の東アジア・オセアニア地区の上級長上会議が開催されました。

この会議には、オーストラリア、インドネシア、韓国、シンガポールー台湾、日本の5つの管区の上級長上、そして東アジア地区の総長顧問であるピーター・チュン神父、さらに二人のオーストラリアの顧問と韓国の第二顧問が出席しました。

日本の総長代理、パウロ九里 彰 神父は、会議開会のミサ聖祭と晩の祈りを司式しました。会議では、2010年10月にシンガポールで開催された長上会議において、総長から示された結論と提案が議題の焦点となり、熱心に討議されました。参加者はそれぞれの管区の最近の状況を報告し、カルメル会の霊性と召命に欠くことのできない共同体生活、修道士(ブラザー)の養成について特に意見を交換しました。

多くの参加者は、今回の長上会議が、近い将来における具体的な協働を実現していくうえで、大いに有益であったと評価しました。

会議のハイライトの一つとして、淳心会(C.I.C.M)の司祭で、長年、京都の仏教系の大学で教鞭をとっていたレイモン・バチカ神父の啓蒙的な講話がありました。テーマは、“日本における私の宗教体験”というものでした。

会議参加者は、京都滞在中に、日本で最大かつ最重要の神社、伊勢神宮を訪れました。また京都の女子跣足カルメル修道会を訪問し、シスター達の大歓迎を受けました。



「カルメル」
2011
今日の霊性・春号



2011 春 No.340

● 目次 ●

		● 目次 ●			
		《二〇一一年特集 マリー・エウジェンヌ》			
		み言葉に問われる者			
		——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と福音書			
		ジャン・フランソワ・ルフエール			
		編・訳 中山 眞理			
		3			
		聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて			
		変容までの長い道のり マリー・エウジェンヌ			
		編・訳 伊従信子			
		(6)			
		11			
		「キリストの証し人、洗礼者ヨハネ」			
		——ヨハネ福音書一章二九〜三四節			
		九里 彰			
		17			
		修道院生活 春夏秋冬 (1)			
		高橋重幸			
		24			
		カルメルの霊性の源流を探して			
		——その「会則」に見る生活			
		中川博道			
		31			
		乙女、使徒、殉教者たちの女王である勝利の聖母に			
		ペトロ・アロイジオ			
		37			
		死に臨む言葉			
		——エディット・シュタインの			
		アウシュヴィッツへの道ゆき			
		(2)			
		須沢かおり			
		43			
		無知であることの涙			
		森 みさ			
		50			
		愛の断章 (19)			
		奥村一郎			
		56			

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

N韓 07/06-12 韓国グループ向け限定内観 滋賀・唐崎・ノートルダム

Y2 07/18(月)-07/24(日)神戸・須磨・ヨハネ

S韓 08/13-19 韓国グループ向け限定内観 長野大鹿村・早々庵

S1 08/21(日)-08/27(土)長野大鹿村・早々庵

M3 09/11(日)-09/17(土)兵庫・売布・女子ご受難会

N3 09/24(土)-09/30(金)滋賀・唐崎・ノートルダム

K4 10/07(金)-10/13(木)東京・小金井・聖霊会

★N4 10/20(木)-10/26(水)滋賀・唐崎・ノートルダム

F1 11/4-9 福岡・黙想の家(5泊6日)

N5 11/15(火)-10/21(月)滋賀・唐崎・ノートルダム

K5 11/28(月)-12/04(日)東京・小金井・聖霊会

M4 12/11(日)-12/17(土)兵庫・売布・女子ご受難会

2012年予定

M101/13(金)-1/19(木)兵庫・売布・女子ご受難会

K101/24(火)-1/30(月)東京・小金井・聖霊会

P102/11(土)-2/17(金)西宮・女子トラピスチヌ

K203/02(金)-3/08(木)東京・小金井・聖霊会

真命山 2011年 — 祈りの集いのご案内

真命山は、次の意向で来訪される方々を歓迎します

- ・ 祈りの時をすごし、静かに内省し、沈黙の中で黙想し、静修し、神のことばを聞く
- ・ 自然の中で自分の信仰の根源を探求する



真命山の一日の流れは、祈りと働きです

午前

- ・ 朝の祈り(太陽が昇る時)
- ・ 座禅
- ・ ごミサ



午後

- ・ インマヌエルの祈り
- ・ 晩の祈り(日没にあわせて)
- ・ 寝る前の祈り

毎第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集い。
2011年の祈りの集いテーマは次の通り

典礼暦年間を通して教会とともに祈る



1 月 13 日	典礼暦一年の周期
2 月 10 日	聖人の記念日 1
3 月 10 日	四旬節
4 月 14 日	過越の三日間
5 月 12 日	復活節
6 月 9 日	聖霊降臨の祭日
7 月 14 日	聖人の記念日 2
9 月 8 日	聖人の記念日 3
10 月 13 日	日曜日 主の日
11 月 10 日	待降節 1
12 月 8 日	待降節 2

毎月第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集いには、どなたでもご参加いただけます。ご参加希望の場合は、あらかじめ電話・ファックス・メールでお知らせください。

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr. マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交渉センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

リーゼンフーバー講座・集いの案内 2011年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。

夏学期: 古代末期教父時代(2-7世紀)
7/2、7/9、7/23、9/3、9/10

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
(祝日、4月21日を除く)
場所: 上智大学内クルトウルハイム1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

●接心

秋川神冥窟 1泊2400円程度

関東

08月07日(日):20時30分-14日(日) 10時
09月21日(水):20時30分-25日(日) 10時
11月02日(水):20時30分-11月6日(日) 10時

関西

7月30日(土)17時30分-8月5日(金)13時 宝塚市
連絡先 シスター田中 電話 0797-84-3111

●ミサ 水曜日 17時10分-18時

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●ミサ後の黙想

18時-18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂

どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分-16時 上智大学内SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

7月9日、8月6日、9月10日、10月8日、11月12日、12月3日、

2012年1月7日、2月18日、3月10日

●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分

クルトウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。

但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会
マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

●黙想会

9月17日(土)10時-18日(日)15時(東村山)、
11月26日(土)10時-27日(日)15時(東村山)、
2012年 2月4日(土)10時-5日(日)15時(東村山)
*1泊5900円程度

[関西] 10月1日(土)13時-2日(日)15時(宝塚)

●アガペ会

10月22日(土)
2012年 1月21日(土)

説明会・集い(13時半～): 上智大学内S.J.ハウス第5会議室

ミサ(17時～): クルトウルハイム1階テレジア聖堂

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 07/01 イエスの生き方— 神に遣わされて
人に仕える
- 07/08 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
- 07/15 イエスは誰か— イエスの自己理解
- 07/22 最後の晩餐— 自分を与えるイエス
- 07/23 感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturlounge
ハイム2階、80人限定)
- 07/29 イエスの受難— その史実と意図
- 08/05 イエスの死— その救済的意義/
上智大学内 Kulturlounge ハイム2階
- 08/12 休み
- 08/19 イエスの復活— 今に生きるイエス/
上智大学内 Kulturlounge ハイム2階
- 08/20-28 通う霊操 (18時-20時45分)/
上智大学内 Kulturlounge ハイム2階
- 08/26 聖書のイエス像— ヨハネの見たイエス/
上智大学内 Kulturlounge ハイム2階
- 09/02 聖霊— 神の愛に導かれる
- 09/09 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関
わる
- 09/16 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
- 09/17-18 黙想会(東村山)
- 09/30 教会の成立と意味— イエスを中心に
集う



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

倫理的行為

- 07/05 性格の形成— 自己受容と善への憧れ
- 07/19 人間の弱さ— 誘惑と罪
- 07/23 感謝のミサ(14時) / 上智大学内 Kulturlounge
ハイム2階
- 08/02 休み
- 08/16 魂の癒し— 恩寵・心の入れ替え・ゆるし
/ 上智大学内 Kulturlounge ハイム2階
- 08/20-28 通う霊操 (18時-20時45分) / 上智大学
内 Kulturlounge ハイム2階

根本的態度

- 08/30 人生を生きる基盤— 信仰と希望
- 09/06 唯一の掟— 愛による完成
- 09/17-18 黙想会(東村山)
- 09/20 基本的な態度— 判断力・勇気・節制
- 10/04 共同存在— 共通善・正義・奉仕
- 10/18 個人の道— 自己の課題の探究と聖霊の
導き

日常生活

- 11/01 対人関係と協力— 恵みである他者
- 11/15 身体と生命— 性と倫理
- 11/26-27 黙想会(東村山)
- 11/29 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

7月9日(土)

9月10日(土)

8月はお休みです

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevic.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

「来て、見なさい」

「私はあなたと共にいる」

—主よ、私の道はどこに—

祈りと分かち合い

テーマ

：人々の中の私 7/10(日)

時間：14:00～17:00 *ミサはありません。

対象：自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：新宿区南元町6-2 マリアの御心会

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 了
- ② 了
- ③ 了
- ④ 8月14日(日)～ 8月22日(月)
- ⑤ 9月23日(金)～ 10月1日(土)
- ⑥ 10月19日(水)～ 10月27日(木)
- ⑦ 11月14日(月)～ 11月22日(火)
- ⑧ 11年12月27日(火)～12年1月4日(水) 予定

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 了
- ② 了
- ③ 了
- ④ 了
- ⑤ 7月22日(金)～ 7月24日(日)
- ⑥ 9月2日(金)～ 9月4日(日)
- ⑦ 12月2日(金)～ 12月4日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

了

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)
その他 若干名

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい
方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



ご復活のラウレンシオ修道士

17世紀フランスのカルメル会修道士。
30年戦争で負傷し、退役後に修道院に入り修道士となる。
料理、靴製造、施しを求めるなど、当時低く見られていた
仕事を行いながら、神の現存を体験した。
死後に、彼の信仰に感銘を受けた修道院長の
ヨセフ・ド・ボーフォールが談話と手紙を集めて
『神の現存の体験』を出版した。

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

「霊性センターへの献金」のお願い

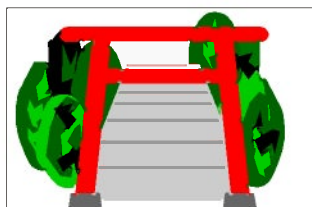
「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください *

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

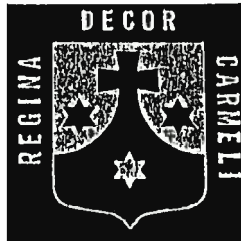


編集後記

先日、「かけ橋」という諸宗教対話ためのカトリックの会議（諸修道会による運営）が宇治の黙想の家で行なわれた。講師に神道の専門家である三橋健先生をお迎えし、一日ご講話を拝聴した。お話をうかがいながら、日本人にとって神道は、日本的霊性のルーツであり、自分自身を理解する上で不可欠であること、また 21 世紀の現代に至るまで、その感性は、大半の日本人にはほとんど意識されることなく、生活のすみずみに浸透しているように思われた。某神父によれば、いわゆる鎌倉仏教は外来宗教であった仏教が神道の次元まで根づいたということのようである。

ひるがえって、キリスト教の場合は、どうであろうか。西欧のキリスト教という匂いが消え、福音そのものが神道の次元まで、すなわち庶民の生活レベルまで降りて来ないならば、いわゆる文化内開花 (inculturation) は起こらず、キリスト教は日本人にとって、あくまでも異質のものとしてとどまるのではないだろうか。

(P. 九里)



***** 8月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊（7月送付無し）となります。
9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「9月号」製本日 8月30日（火） 上野毛教会信徒会館ホール 1 階
(8月は第5週です) 午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171